

# 平成26年度 五泉市国語部 活動報告

部長 奥山 順一

## 1 研究主題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的事項を明らかにして、授業力の向上を図る。

## 2 研究の概要

- ・指導者を招き、演習を行いながら、国語科における授業づくりのあり方について理解を深める。
- ・授業を参観して協議を行い、意見交換をして研修を深める。

## 3 研究の実際

### (1) 演習 平成26年6月25日(水)

「楽しくて力がつく授業」をテーマに、教材『三つのお願い』（光村図書4年下）を取り上げ、グループで授業の構想を考えた。『「単元を貫く言語活動」をどのように設定すればよいか』、「本時のねらいに到達させるために、どのような手立てが必要か」について話し合うことができた。児童にとって、「楽しくて力がつく授業」のためには、まずは、教師の深い教材研究が大切であることも改めて理解することができた。

### (2) 授業研究指導案検討会 平成26年9月10日(水)

授業研究に向けて、単元構成、本時のねらい、教材の提示の工夫などについて、意見交換した。

- ・児童のどのような姿が見られると、本時のめあてが達成できたと言えるのか、具体的な児童の姿を想定することが重要である。
- ・動作化は低学年の文学授業において有効である。しかし、叙述から離れないように、気を付けなければならない。

### (3) 授業研究 平成26年10月22日(水)

授業者：五泉市立愛宕小学校 教諭 加藤 奈緒子 先生

単元名：「こえにだしてよもう」

教材名：『くじらぐも』（光村図書1年）

指導者：五泉市教育委員会学校教育課

指導主事 新田見 誠 様

#### <授業・協議会の概要>

本時のねらいは、「『天までとどけ、1, 2, 3』を工夫して音読することができる」であった。協議会では、言葉に着目させるためのアニメーション的活動（「ダウトを探せ」）の有効性、登場人物の気持ちを想像するために用いたペアでの話し合い、ワークシートの有効性などについて協議を行った。

#### <指導者から>

- アニメーション的手法は、児童が楽しみながら、様子を表す言葉に着目できる。様々な場面で取り入れられるとよい。
- 授業では、めあてと振り返りが正対しなければならない。45分間の授業の中で、「振り返り」まで終わられるように、教師もスキルのトレーニングを積む必要がある。
- 全体での話し合いの場面では、児童から出されたそれぞれの考えが明示されると、児童はそれらの違いを検討しやすくなる。



## 4 成果と課題

演習では、参加者が各自のアイディアを出し合うことで、指導上のポイントに気づき、子どもたちに力を付ける授業構想を考えることができた。授業研究では、昨年引き続き『くじらぐも』を取り上げ、低学年における文学の授業のあり方について深く学ぶことができた。今年度の活動で学んだことを日々の実践に生かしながら、さらなる実践力の向上に向けて取り組みたい。